

■当ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	追加型投信／内外／株式
信託期間	無期限 (信託約款所定の信託終了事由が生じた場合に償還されることがあります。)
運用方針	個人家計の「資産形成」を支援する目的で、「期待収益率が高い」と思われる資産に積極投資をします。
主要運用対象	主として国内外の有価証券に投資する投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	①「株式」に投資します。 ②「グローバル」な視点で投資します。 ③運用は「ファンド・オブ・ファンズ」形式で行います。 ④実績のある資産運用会社の「アクティブ」ファンドに投資します。 ⑤株価が割高と思われるときには、現金比率を高め、割安局面での買い増しに備えます。
組入制限	①投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 ②同一銘柄の投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 ③外貨建資産への投資には制限を設けません。 ④株式への直接投資は行いません。 ⑤デリバティブの直接利用は行いません。
分配方針	毎決算時、収益分配方針に基づいて分配を行います。分配金額は、委託会社が基準価額水準、投資環境や市況動向等を勘案して決定します(分配を行わないことがあります。) 当ファンドは分配金再投資専用であるため、分配金は税金が差し引かれた後、自動的に再投資されます。

本書の記載内容等に関するお問い合わせ先

ユニオン投信株式会社 業務管理部

電話番号：0263-38-0725

受付時間：午前9時～午後5時

(土日祝日、年末年始を除きます。)

ホームページ：http://www.unionam.co.jp/

『ユニオンファンド』

運用報告書(全体版)

第9期(決算日2017年10月2日)

作成対象期間(2016年10月1日～2017年10月2日)

受益者のみなさまへ…

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。このたび、「ユニオンファンド」は、第9期決算を迎えることができました。ここに期中の運用状況等についてご報告申し上げます。

2008年のリーマンショックの荒波の中、運用をスタートし、2010年代に入ってからでもギリシャショック、ユーロ危機、チャイナショックと世界的にも大きな危機を乗り越えてきました。

ひとえに、当ファンドを信じて、お金を託していただいているお客様のお蔭であり、また世界中の企業が逞しく度々の危機を乗り越えてきたお蔭でもあります。

これからも、“予期せざる未知”に遭遇することはあると考えます。それでも、「よりよい社会にしたい」という人間の欲と行動でそれらを乗り越えていくはずです。

さあ、私たちも、今を逞しく、未来に向かって、進化していきましょう。

ファンド仲間の皆様からお預かりした大切なご資金は、選び抜いたファンドを通じて世界中の選ばれた企業に投資しています。

皆様の資産形成のお役に立てるよう邁進してまいります。

あなたと大切な方の未来のために

ユニオン投信 Union Asset Management

〒390-0815

長野県松本市深志一丁目1番21号
中田歯科ビル5F

■最近5期の運用実績

決算期	基準価額			投資信託証券 組入比率	純資産総額
	(分配落)	税込 分配金	期中 騰落率		
	円	円	%	%	百万円
5期 (2013年9月30日)	17,852	0	42.5	85.5	2,193
6期 (2014年9月30日)	20,291	0	13.7	75.8	2,926
7期 (2015年9月30日)	19,779	0	△ 2.5	62.2	3,492
8期 (2016年9月30日)	19,893	0	0.6	77.8	4,151
9期 (2017年10月2日)	24,971	0	25.5	85.8	5,751

(注1) 基準価額(分配落)、税込分配金は1万口当たり、期中騰落率は前期末比で表示しています。

(注2) 期中騰落率、組入比率は小数第2位四捨五入で、純資産総額は単位未満切捨てで表示しています。

(注3) 当ファンドは、主に国内外の株式に投資する投資信託証券に分散投資していますが、比較できる適切な指数が存在しないため、ベンチマークを設けておらず、参考指数もありません。よって上表に併記していません。

■当期中の基準価額等の推移

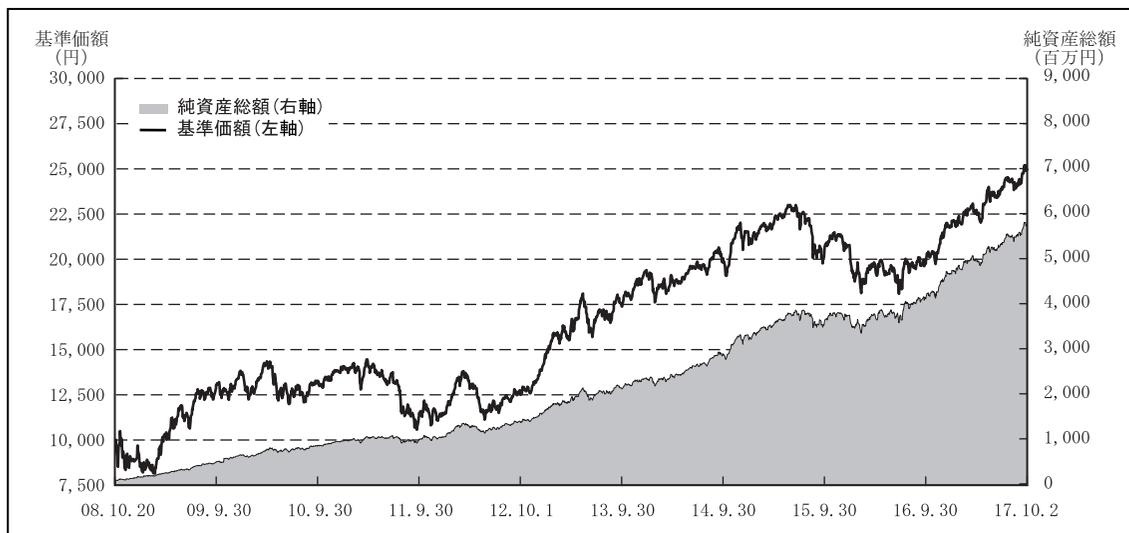
年月日	基準価額		投資信託証券 組入比率	純資産総額
	騰落率			
(期首)	円	%	%	百万円
2016年9月30日	19,893	—	77.8	4,151
10月末	20,421	2.7	78.0	4,287
11月末	21,144	6.3	78.8	4,492
12月末	21,769	9.4	80.0	4,671
2017年1月末	22,329	12.2	80.8	4,851
2月末	22,426	12.7	80.4	4,905
3月末	22,713	14.2	81.5	4,999
4月末	23,055	15.9	81.3	5,110
5月末	23,642	18.8	81.7	5,248
6月末	23,914	20.2	81.4	5,346
7月末	24,341	22.4	83.6	5,505
8月末	24,229	21.8	85.7	5,553
9月末	24,985	25.6	85.7	5,759
(期末)				
2017年10月2日	24,971	25.5	85.8	5,751

(注1) 基準価額は1万口当たり、騰落率は期首比で表示しています。

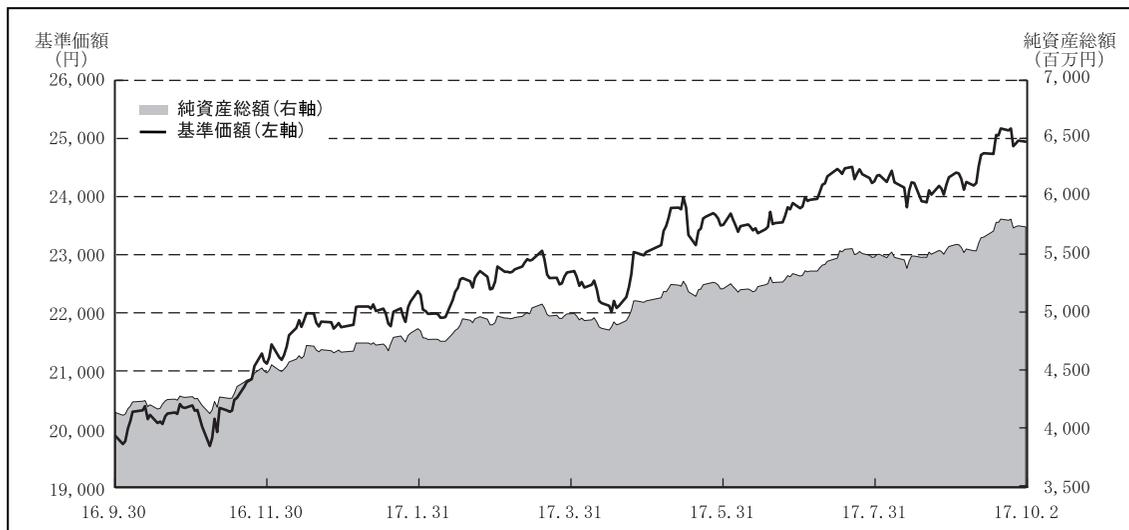
(注2) 騰落率、組入比率は小数第2位四捨五入で、純資産総額は単位未満切捨てで表示しています。

(注3) 当ファンドは、主に国内外の株式に投資する投資信託証券に分散投資していますが、比較できる適切な指数が存在しないため、ベンチマークを設けておらず、参考指数もありません。よって上表に併記していません。

■ 設定以来の基準価額等の推移 (2008年10月20日～2017年10月2日)



■ 当期中の基準価額等の推移 (2016年9月30日～2017年10月2日)



■当期の基準価額の主な変動要因

当期は、世界的に株価が上昇し、為替市場では概ね円安となりました。当ファンドは、日本を含む世界の株式にファンドを通じて投資していますが、組み入れているファンドのすべてが値上がりし、基準価額のプラス要因となりました。

最大の値上がりとなったのはハリスFで、期中で48.2%の大幅高となりました。投資対象市場である欧米の株価好調と円安に加え、銘柄選択が功を奏したため、市場の動きを大きく上回りました。

また、キャピタルF、コムジェストEMFも、期中の値上がりが30%前後に達し、当ファンドの値上がりに寄与しました。

一方、当期は期首から組入比率を段階的に引き上げてまいりましたが、期中の平均で81%程度とやや慎重なスタンスを維持したため、組入ファンドの値上がりを享受できなかった部分がありました。

(注) 当運用報告書(全体版)では、組入ファンドの名称を以下のとおり省略して記載することがあります。

- ・「さわかみファンド」：さわかみF
- ・「キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド(LUX)クラスZ」：キャピタルF
- ・「ALAMCO ハリス グローバル バリューストックファンド 2007(適格機関投資家専用)」：ハリスF
- ・「ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンドSA(適格機関投資家限定)」：コムジェストEUF
- ・「ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンドSA(適格機関投資家限定)」：コムジェストEMF

■当期の投資環境

当期は、2016年11月の米国大統領選挙や2017年春以降の欧州主要国での選挙、さらに米国と北朝鮮の対立激化など、主に政治面での懸念要因が市況を一時的に悪化させる場面がたびたびありました。しかし、いずれも懸念されたほどの悪い結果とはならなかったため、世界的な景気拡大と企業業績の好調がほぼ一貫して評価される展開となりました。世界の株式市場は全体として2ケタ上昇し、為替市場では対円でドルは約11%、ユーロは約17%、新興国通貨は約12%それぞれ上昇しました。海外の株式に高いウェイトをかけている当ファンドには良い環境となりました。

以下、株式市場、為替市場のそれぞれについて推移をご説明します。

【株式市場の動き】

当期は、中国の景気悪化懸念、英国によるEU離脱決定という大きなマイナス材料による動揺が徐々に和らぐ中でスタートしました。

2016年11月の米国大統領選挙では、大方の事前予想に反して共和党のトランプ候補が当選しました。投票日の直前にはトランプ候補の当選を警戒して株価は軟調となり、実際、当選が決まった直後は日本をはじめ多く株式市場が大きく動揺しました。しかし、トランプ氏が公約に掲げてきた大規模な減税やインフラ投資が評価されると、景気拡大への期待が広がって株価は反騰しました。

2017年に入りますと、欧州主要国での選挙の見通しが一時株価の上値を押さえました。英国、米国と相次いで自国中心主義を掲げる主張が広がっていたこともあり、オランダ総選挙（3月）やフランス大統領選挙（4～5月）では極右勢力が力を増して保護貿易主義が強まり、世界経済にマイナスの影響が及ぶのではないかと懸念されました。しかし、オランダ、フランスともに極右勢力の伸びは予想より鈍く、市場に安心感が広がったことから株価の調整は一時的なもので済みました。

その後は、北朝鮮による核兵器と長距離ミサイルの開発を巡って米国と北朝鮮の間の対立が激しさを増し、株価が調整する場面がありました。しかし、市場関係者は武力衝突の可能性を高く見ておらず、株価の調整は限定的でした。

この間、2016年の年明けあたりに底打ちしていた世界の景気は回復ピッチが徐々に高まり、かつ世界中に広がりを見せました。また、企業業績もほぼ一貫して拡大しました。米国では、失業率が歴史的な低水準にほぼ達するなど、景気は高水準を維持しましたが、拡大ピッチは期待ほど高まらないままでした。一方、欧州や新興国では景気回復が加速したため、株価の上昇率は前期を上回りました。

【為替市場の動き】

総じて円安傾向の1年でした。米国では当期に政策金利が3回（2015年12月からの通算では4回）引き上げられ、欧州でもECB（欧州中央銀行）が量的緩和策を転換し始めました。一方、日銀は超緩和的な金融政策の継続を掲げ、日本の金利が相対的に低いまま推移すると見られたことが、円安の主因と考えられます。

ドル円は、米国大統領選直後から2017年初めにかけて大きく上昇しました。トランプ政権の政策による景気拡大期待とそれともなう金利上昇予想が背景です。ただ、政策実現への疑問が次第に広がったことや、米国景気の拡大ピッチの鈍さ、インフレ率の低迷などから、金融引き締めはかなりゆっくり進むとの見方が強まりました。このため、ドルは年初までの上昇分のかなりを帳消しにしました。

ユーロは、欧州景気の復調が鮮明となり、金融緩和策も徐々に縮小に向かうとの見方が広がるにつれて強さを増しました。対円では1～3月にかけて調整する場面もありましたが、前期末比では大幅な上昇で終わりました。

新興国通貨は、ロシアやブラジルの経済がプラス成長に転じる見通しとなるなど全般に景気が明るさを増したことなどを背景に、ほぼ堅調に推移しました。対ドルレートはほぼ横ばいを維持し、対円では上昇しました。

■当期の運用状況

当ファンドは、世界の株価の長期的な成長を通じて基準価額の上昇を目指しています。とりわけ新興国の株式は、中長期的な経済成長と企業業績の拡大にともなって株価も上昇していくとの考え方にに基づき、当期も相対的に高めのウェイトで投資を継続しました。

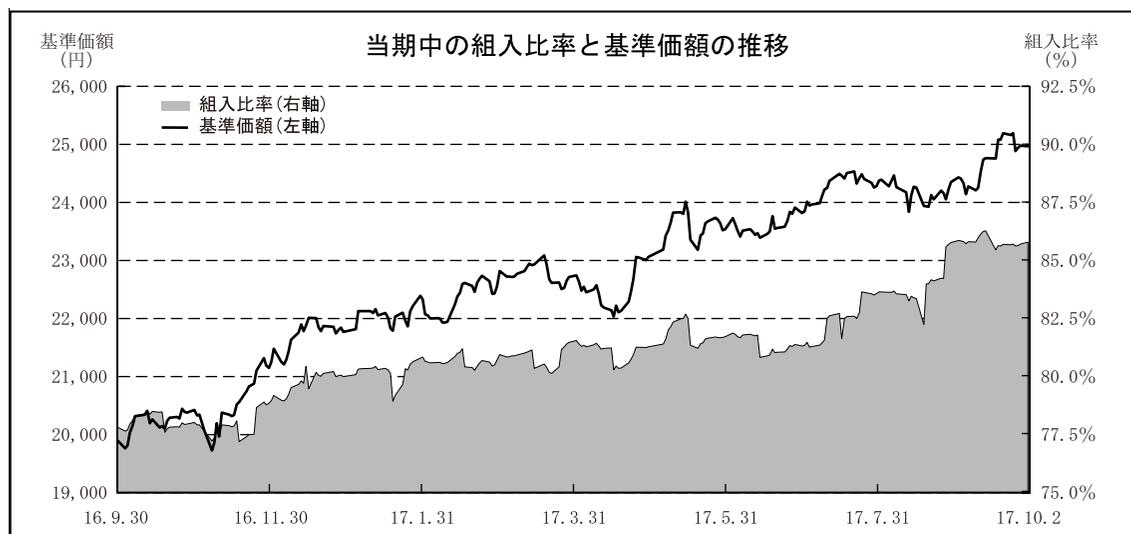
当期の世界経済は総じて順調な拡大が続きましたが、一方では北朝鮮問題や米国の利上げの影響、中国の不良債権問題といった不確実な要素もはらんだまま推移しました。こうした状況を考慮し、組入比率は引き続き若干抑え気味としつつ、市場の軟化局面を中心に買い増しを行いました。なかでも前期途中から市場環境が追い風になり好調さを取り戻したハリスFの組入比率をやや大きめに引き上げました。

また、7月にはコムジェストEUFへの投資を開始しました。同ファンドは欧州の優れた企業を厳選して投資しており、今後も高い運用成果が期待できると判断したことに加え、米国株に比べて欧州株の割安感が強いことも考慮したものです。

以上の結果、全体の組入比率は期首の77.8%に対し、期末は85.8%へと高まっています。

ファンド別の組入比率は、コムジェストEMF 38.0%、ハリスF 22.4%、キャピタルF 13.8%、さわかみF 7.2%、コムジェストEUF 4.5%としています。

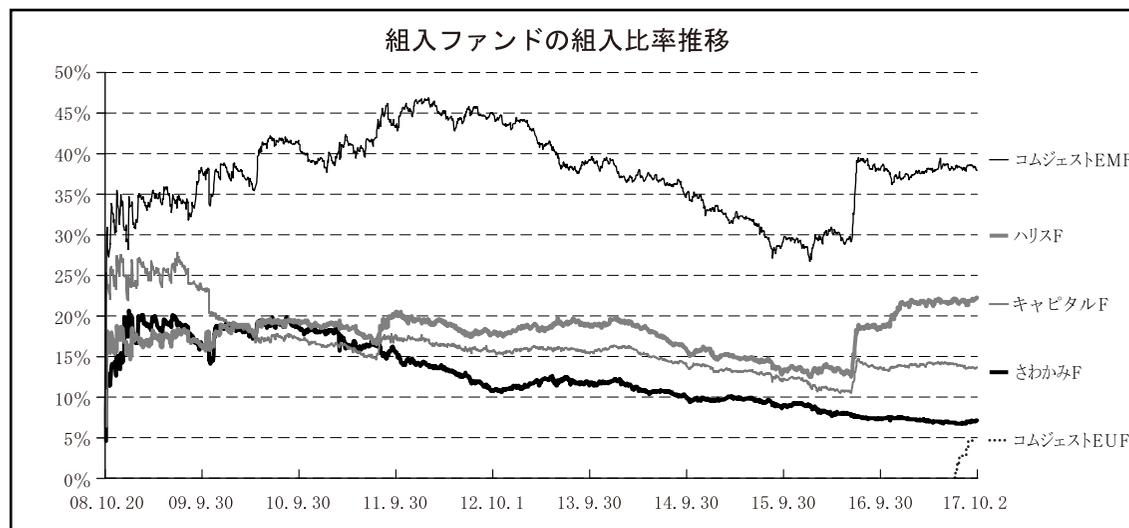
地域別には、コムジェストEMFを高位に保ったことから新興国の割合が引き続き最大となっています。また、欧州株の組み入れが比較的多いハリスFの組み入れを増やしたことと、コムジェストEUFへの新規投資により、欧州株式の割合を前期に比べ高めました。



【参考情報】当ファンド設定以来の組入ファンドの状況



(注) 上記グラフはユニオンファンドの組み入れ時期にかかわらず記載しています。



■ベンチマーク

当ファンドは、比較できる適切な指数が存在しないため、運用の目標とするベンチマークを設けておらず、参考指数もありません。

■分配金

基準価額の水準、投資環境、運用の安定等を考慮し、当期は分配を行わないこととしました。なお、収益分配に充てなかった利益については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

(分配原資の内訳：2016年10月1日～2017年10月2日)

(1万口当たり、税込み)

項目		当期
当期分配金	(円)	—
(対基準価額比率)	(%)	—
当期の収益	(円)	—
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	14,971

(注1) 対基準価額比率は、当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益および当期の収益以外は円未満切捨てで表示しているため、その合計が当期分配金と一致しないことがあります。

■今後の運用方針

米国大統領選では、その直前と直後に下落した株価がトランプ候補の当選で急反騰に転じるという予想外の展開を見せました。このことは、市場の動きを予想することがいかに難しいかを改めて教えてくれるものです。世界には常に株価を押し下げるリスク要因があるものの、肝心なのはやはり景気と企業業績だと考えます。

一方、金融政策を中心として金融環境が過去には株価に大きな影響を与えてきました。米国では今後一段と金利が引き上げられる可能性が高いですし、中央銀行にあたるFRBは金融危機以降に買い付け保有し続けてきた債券の額を今後減らしていくことを決定しています。また、ECBも超緩和策の縮小を進めていくと見られます。金融政策のこうした転換は、時期と程度はさておき何らかの影響を市場に与えていくものと思われます。

もっとも、これら投資環境の変化が影響する度合いは世界で一様というわけではありません。欧州と新興国は、国が抱える債務の問題や、銀行など金融機関の脆弱性などから、リーマンショック後の回復がかなり遅れました。景気拡大の年数もまだそれほど長くはなく、水準も低い

状態にあります。業績水準と比較して見た株価にも、米国ほどの割高感がありません。これらのことは、今後の株価上昇余地が大きいことをうかがわせます。

こうした観点から、より割安で今後の成長が一層期待できる市場に投資するファンドや、それぞれの市場で優位性を持つファンドへの投資を今後も進めていく方針です。あわせて、投資対象としての要件に適したファンドの選定も進めてまいります。

■ 1万口当たりの費用明細 (2016年10月1日～2017年10月2日)

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	198 (124) (67) (7)	0.864 (0.540) (0.292) (0.032)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用 (その他)	5 (5)	0.020 (0.020)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数(各月末の残存受益権口数の単純平均) 金銭信託にかかる手数料等
合計	203	0.884	
期中の平均基準価額は、22,914円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期間における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては、「組入投資信託証券の運用内容」に表示しています。

(注3) 金額は、項目ごとに円未満四捨五入で表示しています。

(注4) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額を期中の平均基準価額(各月末の基準価額の単純平均)で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第4位四捨五入で表示しています。

■売買および取引の状況（2016年10月1日～2017年10月2日）

投資信託証券

銘柄		当 期			
		買 付		売 付	
		単位数・口数 (千口)	金額 (千円)	単位数・口数 (千口)	金額 (千円)
国内	ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンドSA	125,364	250,000	—	—
	ALAMCO ハリス グローバルバリュー株ファンド 2007	194,258	241,941	—	—
	ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンドSA	72,556	110,000	—	—
	さわかみファンド	8,573	20,000	—	—
外国	キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド（LUX）クラスZ	13	40,000	—	—

（注1）金額は、受渡代金です。

（注2）単位未満切捨てで表示しています。

（注3）ALAMCO ハリス グローバル バリュー株ファンド 2007の買付は、分配金再投資によるものを含んでいます。

■利害関係人との取引状況等（2016年10月1日～2017年10月2日）

当期における利害関係人との取引はありません。

（注）利害関係人とは投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当期における当ファンドにかかる利害関係人とは、セイコーエプソン労働組合です。

■第二種金融商品取引業を兼業している委託会社の自己取引状況

（2016年10月1日～2017年10月2日）

当期における自己取引はありません。

■自社による当ファンドの設定・解約状況（2016年10月1日～2017年10月2日）

期首残高 (元本) (百万円)	当期設定 元本 (百万円)	当期解約 元本 (百万円)	期末残高 (元本) (百万円)	取引の理由
30	—	—	30	自社財産の運用を目的とした取得等

（注）単位未満切捨てで表示しています。

■組入資産の明細

ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建投資信託証券の明細

銘柄名	期首 (前期末)	当期末 (2017年10月2日現在)		
	単位数・口数 (千口)	単位数・口数 (千口)	評価額 (千円)	組入比率 (%)
株式ファンド (日本)				
ニッポンコムジェスト・エマージ ングマーケット・ファンドSA	1,174,997	1,247,554	2,182,595	38.0
ALAMCO ハリス グローバル バリュー株ファンド 2007	737,336	931,595	1,287,651	22.4
さわかみファンド	158,565	167,139	413,904	7.2
ニッポンコムジェスト・ヨーロッ パ・ファンドSA	—	125,364	258,828	4.5
(ルクセンブルク)				
キャピタル・グループ・グローバ ル・エクイティ・ファンド(LU X) クラスZ	226	240	791,105	13.8
合計	2,071,127	2,471,894	4,934,085	85.8
銘柄数	4銘柄			5銘柄

(注1) 単位数・口数、評価額は、単位未満切捨てで表示しています。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

■投資信託財産の構成 (2017年10月2日現在)

項目	当期末	
	評価額(千円)	比率(%)
投資信託受益証券	4,142,980	71.6
投資証券	791,105	13.7
コール・ローン等、その他	848,467	14.7
投資信託財産総額	5,782,552	100.0

(注1) 評価額は単位未満切捨てで、比率は小数第2位四捨五入で表示しています。ただし、コール・ローン等、その他の評価額および比率は、投資信託財産総額から他の項目の合計を差し引いたものです。

(注2) 当期末における外貨建資産はありません。

■資産、負債、元本および基準価額の状況
(2017年10月2日現在)

項目	当期末
(A) 資産	5,782,552,876円
コール・ローン等	848,467,031
投資信託受益証券(評価額)	4,142,980,387
投資証券(評価額)	791,105,458
(B) 負債	31,345,525
未払解約金	7,882,871
未払信託報酬	23,384,474
その他未払費用	78,180
(C) 純資産総額(A-B)	5,751,207,351
元本	2,303,143,656
次期繰越損益金	3,448,063,695
(D) 受益権総口数	2,303,143,656口
1万口当たり基準価額(C/D)	24,971円

(注1) 期首元本額 2,087,134,430円
 期中追加設定元本額 371,082,646円
 期中一部解約元本額 155,073,420円
 (注2) 1口当たり純資産額 2,4971円

■損益の状況
(2016年10月1日～2017年10月2日)

項目	当期
(A) 配当等収益	108,698,939円
受取配当金	108,698,890
受取利息	49
(B) 有価証券売買損益	1,002,536,029
売買益	1,041,414,536
売買損	△38,878,507
(C) 信託報酬等	△44,351,686
(D) 当期損益金(A+B+C)	1,066,883,282
(E) 前期繰越損益金	651,804,101
(F) 追加信託差損益金	1,729,376,312
(配当等相当額)	(1,450,062,317)
(売買損益相当額)	(279,313,995)
(G) 合計(D+E+F)	3,448,063,695
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	3,448,063,695
追加信託差損益金	1,729,376,312
(配当等相当額)	(1,450,062,317)
(売買損益相当額)	(279,313,995)
分配準備積立金	1,718,687,383
繰越損益金	0

(注1) (B)有価証券売買損益は、期末の評価替えによるものを含みます。
 (注2) (C)信託報酬等は、信託報酬等に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注3) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注4) 期末における解約に伴う当期純利益金額分配後の配当等収益から費用を控除した額(104,361,344円)、解約に伴う当期純利益金額分配後の有価証券売買等損益から費用を控除し、繰越欠損金を補填した額(868,120,157円)、信託約款に規定される収益調整金(1,729,376,312円)および分配準備積立金(746,205,882円)より分配対象額は3,448,063,695円(1万口当たり14,971円)です。分配は行っていません。

■お知らせ

◎2017年6月30日付で、当ファンドの投資対象である投資信託証券に「ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンドS A（適格機関投資家限定）」を追加する信託約款の付表の変更を行いました。

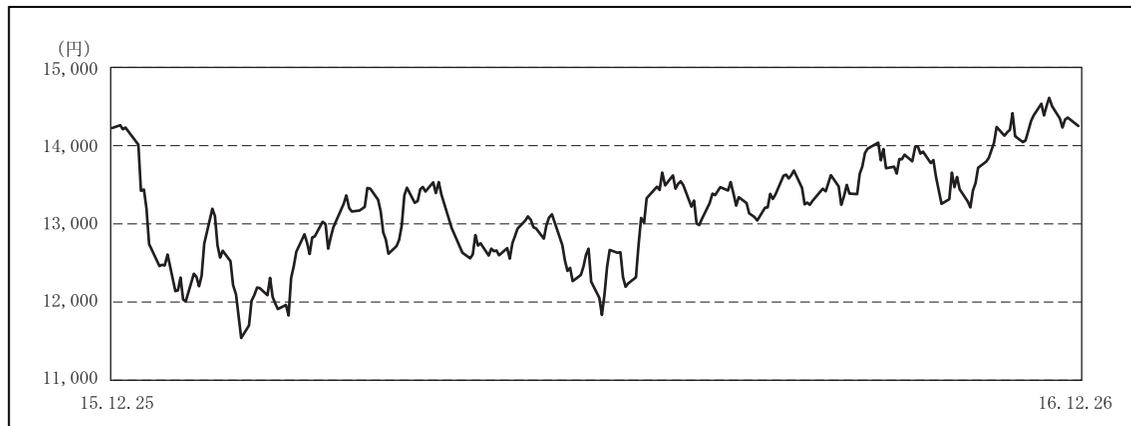
■組入投資信託証券の運用内容

当期末時点の組入投資信託証券（組入ファンド）について、当運用報告書（全体版）作成時点において入手可能な直近計算期間に関する情報を記載しています。

1 《ニッポンコムゲスト・エマージングマーケット・ファンドSA（適格機関投資家限定）》

決算日：2016年12月26日 計算期間：2015年12月26日～2016年12月26日

◎基準価額の推移（2015年12月25日～2016年12月26日）



◎ 1万口当たりの費用明細 (2015年12月26日～2016年12月26日)

項目	金額 (円)	比率 (%)	項目の概要
(a) 信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	144 (86) (43) (14)	1.083 (0.650) (0.325) (0.108)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (株式)	23 (23)	0.175 (0.175)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税 (株式)	5 (5)	0.036 (0.036)	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他1) (その他2)	23 (20) (1) (1) (0)	0.170 (0.153) (0.007) (0.009) (0.001)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 外国株式に関する各種手数料等 (ADR手数料や税務代理人費用等) インド株式におけるキャピタルゲイン課税等
合計	195	1.464	
期中の平均基準価額は、13,274円です。			

(注1) 期中の費用 (消費税等のかかるものは消費税等を含む) は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は、当組入ファンドの期末の税率を採用しています。

(注3) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当組入ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当組入ファンドに対応するものです。

(注4) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額 (円未満の端数を含む) を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第4位四捨五入で表示しています。

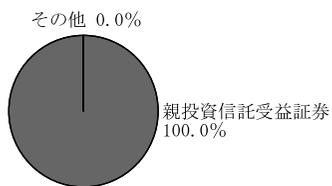
◎組入資産の明細

親投資信託残高

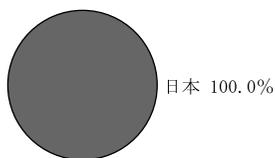
銘柄名	期首 (前期末)	当期末 (2016年12月26日現在)	
	口数(千口)	口数(千口)	評価額(千円)
ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット マザーファンド	5,463,625	5,634,496	8,726,144

(注) 口数、評価額は、単位未満切捨てで表示しています。

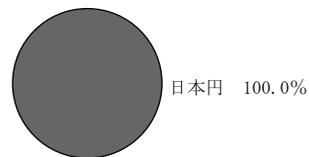
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当組入ファンドの純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

◎資産、負債、元本および基準価額の状況
(2016年12月26日現在)

項目	当期末
(A) 資産	8,770,567,642円
コール・ローン等	44,423,055
ニッポンコムジェスト・エマーシング マーケット マザーファンド(評価額)	8,726,144,587
(B) 負債	43,394,679
未払信託報酬	43,124,570
未払利息	109
その他未払費用	270,000
(C) 純資産総額(A-B)	8,727,172,963
元本	6,134,442,583
次期繰越損益金	2,592,730,380
(D) 受益権総口数	6,134,442,583口
1万口当たり基準価額(C/D)	14,227円

(注1) 期首元本額	5,885,580,633円
期中追加設定元本額	1,839,442,271円
期中一部解約元本額	1,590,580,321円
(注2) 1口当たり純資産額	1.4227円

◎損益の状況
(2015年12月26日～2016年12月26日)

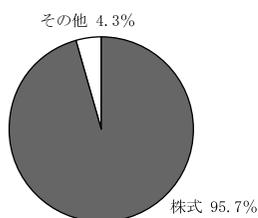
項目	当期
(A) 配当等収益	△6,585円
受取利息	95
支払利息	△6,680
(B) 有価証券売買損益	341,256,200
売買益	534,454,588
売買損	△193,198,388
(C) 信託報酬等	△81,071,868
(D) 当期損益金(A+B+C)	260,177,747
(E) 前期繰越損益金	1,124,606,295
(F) 追加信託差損益金	1,207,946,338
(配当等相当額)	(2,869,063,778)
(売買損益相当額)	(△1,661,117,440)
(G) 計(D+E+F)	2,592,730,380
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	2,592,730,380
追加信託差損益金	1,207,946,338
(配当等相当額)	(2,873,881,823)
(売買損益相当額)	(△1,665,935,485)
分配準備積立金	1,707,945,031
繰越損益金	△323,160,989

- (注1) (B)有価証券売買損益は、期末の評価替えによるものを含みます。
- (注2) (C)信託報酬等は、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
- (注3) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
- (注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(103,304,164円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(2,873,881,823円)および分配準備積立金(1,604,640,867円)より分配対象収益は4,581,826,854円(10,000口当たり7,469円)ですが、当期に分配した金額はありません。

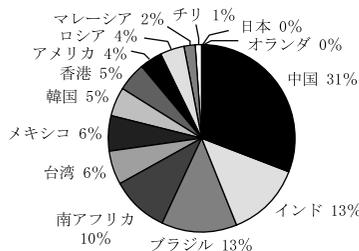
◎ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット マザーファンド 組入状況 (2016年12月26日現在)
組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	MSCI業種11分類	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	TAIWAN SEMICONDUCTOR-SP ADR	情報技術	台湾	米ドル	6.3
2	株式	CHINA LIFE INSURANCE CO-H	金融	中国	香港ドル	4.8
3	株式	NETEASE INC ADR	情報技術	中国	米ドル	4.5
4	株式	POWER GRID CORP OF INDIA LTD	公益事業	インド	インドルピー	4.3
5	株式	INFOSYS LTD-SP ADR	情報技術	インド	米ドル	3.8
6	株式	CHINA MOBILE LTD	電気通信サービス	中国	香港ドル	3.3
7	株式	SAMSUNG LIFE INSURANCE CO	金融	韓国	韓国ウォン	3.2
8	株式	MTN GROUP LTD	電気通信サービス	南アフリカ	南アフリカランド	3.1
9	株式	FOMENTO ECONOMICO MEXICANO	生活必需品	メキシコ	メキシコペソ	2.8
10	株式	BB SEGURIDADE PARTICIPACOES SA	金融	ブラジル	ブラジルリアル	2.8
組入銘柄数						39銘柄

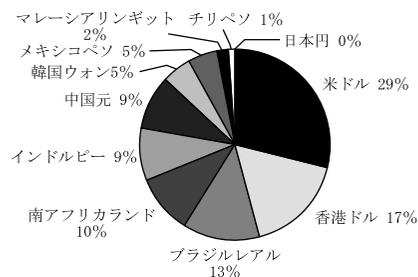
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当親投資信託の純資産総額に対する各評価額の割合です。

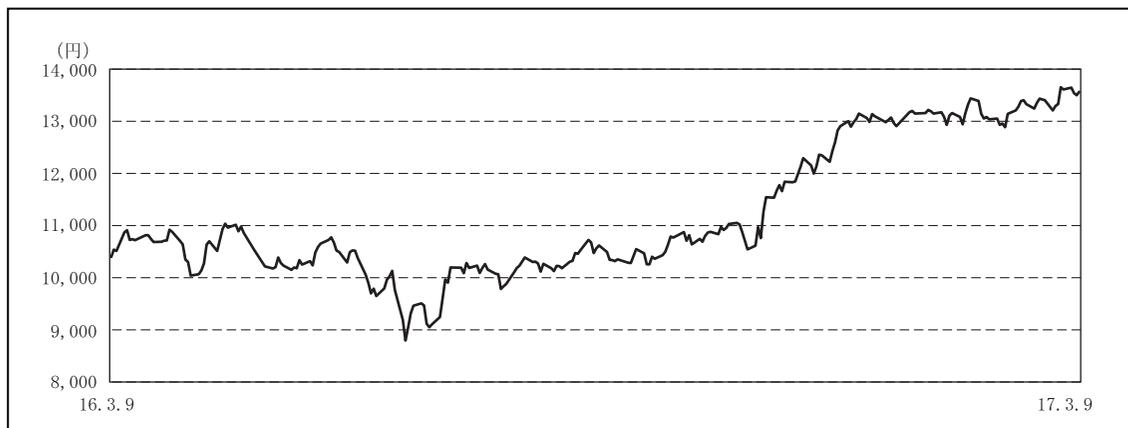
(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

(注3) 国は、基本的にMSCI分類を使用しています。

2 《ALAMCO ハリス グローバル バリューストックファンド 2007（適格機関投資家専用）》

決算日：2017年3月9日 計算期間：2016年3月10日～2017年3月9日

◎基準価額の推移（2016年3月9日～2017年3月9日）



◎ 1万口当たりの費用明細 (2016年3月10日～2017年3月9日)

項目	金額 (円)	比率 (%)	項目の概要
(a) 信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	158 (122) (27) (10)	1.404 (1.080) (0.238) (0.086)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (株式会社)	4 (4)	0.033 (0.033)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買の際に支払う手数料
(c) 有価証券取引税 (株式会社)	3 (3)	0.029 (0.029)	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他)	9 (8) (1) (0)	0.076 (0.070) (0.005) (0.001)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・ 資産の移転等に要する費用 監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 信託事務の処理等に関するその他の費用
合計	174	1.542	
期中の平均基準価額は、11,282円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額は、項目ごとに円未満四捨五入で表示しています。

(注3) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当組入ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当組入ファンドに対応するものを含みます。

(注4) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第4位四捨五入で表示しています。

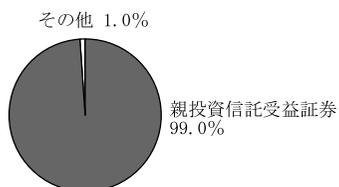
◎組入資産の明細

親投資信託残高

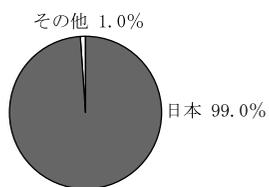
銘柄名	期首 (前期末)	当期末 (2017年3月9日現在)	
	口数(千口)	口数(千口)	評価額(千円)
ALAMCO ハリス グローバル バリューストックマザーファンド	3,237,434	2,455,182	4,597,819

(注) 口数、評価額は、単位未満切捨てで表示しています。

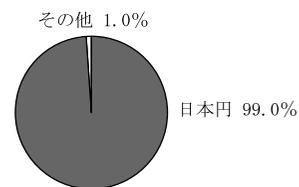
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当組入ファンドの純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産(負債控除後)です。

◎資産、負債、元本および基準価額の状況
(2017年3月9日現在)

項目	当期末
(A) 資産	5,213,020,730円
コール・ローン等	615,200,762
ALAMCO ハリス グローバル バリュースタマザーファンド (評価額)	4,597,819,968
(B) 負債	567,283,597
未払収益分配金	534,790,781
未払信託報酬	32,366,834
未払利息	1,550
その他未払費用	124,432
(C) 純資産総額 (A - B)	4,645,737,133
元本	3,819,934,150
次期繰越損益金	825,802,983
(D) 受益権総口数	3,819,934,150口
1万口当たり基準価額 (C/D)	12,162円

(注) 期首元本額	4,423,720,877円
期中追加設定元本額	320,212,109円
期中一部解約元本額	923,998,836円

◎損益の状況
(2016年3月10日～2017年3月9日)

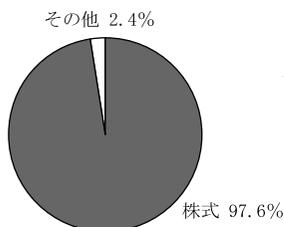
項目	当期
(A) 配当等収益	△32,414円
支払利息	△32,414
(B) 有価証券売買損益	1,274,813,684
売買益	1,306,318,817
売買損	△31,505,133
(C) 信託報酬等	△63,680,384
(D) 当期損益金 (A+B+C)	1,211,100,886
(E) 前期繰越損益金	△299,111,345
(F) 追加信託差損益金	448,604,223
(配当等相当額)	(1,206,225,665)
(売買損益相当額)	(△757,621,442)
(G) 計 (D + E + F)	1,360,593,764
(H) 収益分配金	△534,790,781
次期繰越損益金 (G+H)	825,802,983
追加信託差損益金	448,604,223
(配当等相当額)	(1,206,905,510)
(売買損益相当額)	(△758,301,287)
分配準備積立金	377,198,760

- (注1) (B)有価証券売買損益は、期末の評価替えによるものを含みます。
- (注2) (C)信託報酬等は、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
- (注3) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
- (注4) 投資信託財産の運用の指図にかかる権限の全部または一部を委託する場合における当該委託に要する費用は、29,214,288円となります。
- (注5) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(72,540,387円)、費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益(343,018,733円)、信託約款に規定する収益調整金(1,206,905,510円)および分配準備積立金(496,430,421円)より分配可能額は2,118,895,051円(10,000口当たり5,546円)であり、うち534,790,781円(10,000口当たり1,400円)を分配金額としています。

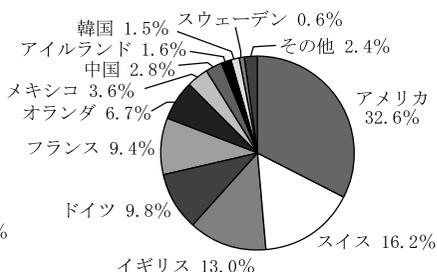
◎ALAMCO ハリス グローバル バリューストックマザーファンド 組入状況 (2017年3月9日現在)
組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	業種等	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	BNP PARIBAS	銀行	フランス	ユーロ	5.0
2	株式	CNH INDUSTRIAL NV	資本財	オランダ	ユーロ	5.0
3	株式	ALLIANZ SE	保険	ドイツ	ユーロ	4.9
4	株式	GLENCORE PLC	素材	イギリス	英ポンド	4.9
5	株式	DAIMLER AG-REG	自動車・自動車部品	ドイツ	ユーロ	4.8
6	株式	CREDIT SUISSE GROUP AG-REG	各種金融	スイス	スイスフラン	4.8
7	株式	GENERAL MOTORS CO	自動車・自動車部品	アメリカ	米ドル	4.0
8	株式	JULIUS BAER GROUP LTD	各種金融	スイス	スイスフラン	3.6
9	株式	GRUPO TELEVISIA SA-SPON ADR	メディア	メキシコ	米ドル	3.6
10	株式	WELLS FARGO & CO	銀行	アメリカ	米ドル	3.3
組入銘柄数				36銘柄		

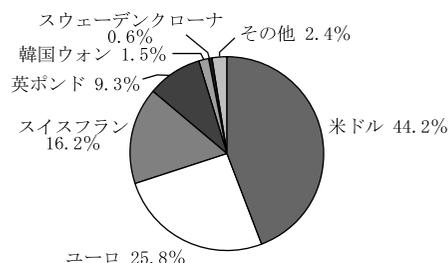
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当親投資信託の純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

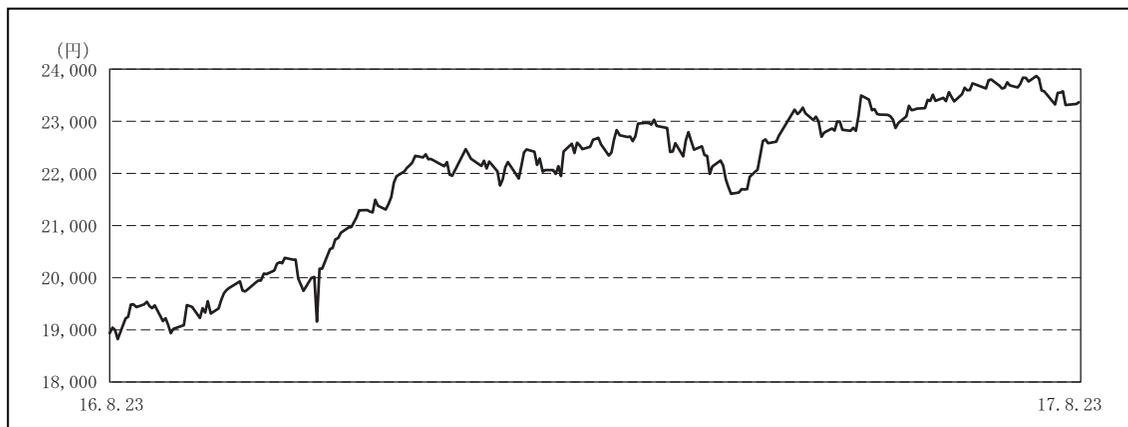
(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

(注3) 国は、ユニオン投信株式会社の判断により分類しています。

3 《さわかみファンド》

決算日：2017年8月23日 計算期間：2016年8月24日～2017年8月23日

◎基準価額の推移（2016年8月23日～2017年8月23日）



◎1万口当たりの費用明細（2016年8月24日～2017年8月23日）

項目	金額 (円)	比率 (%)	項目の概要
(a) 信託報酬 (委託会社)	237 (130)	1.080 (0.594)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(83)	(0.378)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
(受託会社)	(24)	(0.108)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (株式)	1 (1)	0.004 (0.004)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) その他費用 (その他)	0 (0)	0.000 (0.000)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 金銭信託にかかる手数料等
合計	238	1.084	
期中の平均基準価額は、21,956円です。			

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額は、項目ごとに円未満四捨五入で表示しています。

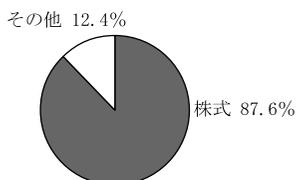
(注3) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第4位四捨五入で表示しています。

◎組入資産の明細 (2017年8月23日現在)

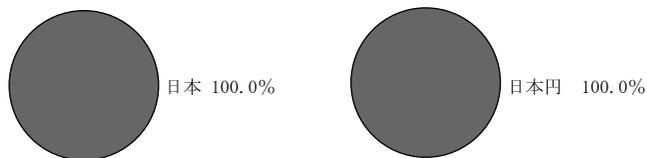
組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	業種	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	ブリヂストン	ゴム製品	日本	日本円	4.7
2	株式	日本電産	電気機器	日本	日本円	4.3
3	株式	花王	化学	日本	日本円	3.5
4	株式	ダイキン工業	機械	日本	日本円	3.3
5	株式	TOTO	ガラス・土石製品	日本	日本円	2.8
6	株式	信越化学工業	化学	日本	日本円	2.7
7	株式	国際石油開発帝石	鉱業	日本	日本円	2.6
8	株式	浜松ホトニクス	電気機器	日本	日本円	2.5
9	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	日本	日本円	2.5
10	株式	デンソー	輸送用機器	日本	日本円	2.1
				組入銘柄数		98銘柄

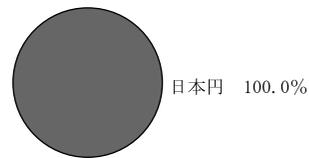
【資産別配分】



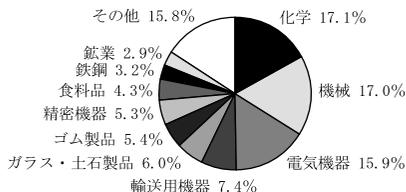
【国別配分】



【通貨別配分】



【業種別配分】



(注1) 組入上位10銘柄および資産別配分の比率は、当組入ファンドの純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

(注2) 国別配分、通貨別配分および業種別配分の比率は、当組入ファンドの組入有価証券の評価額の合計に対する各評価額の割合です。

(注3) 資産別配分のその他は、現金・預金・その他の資産（負債控除後）です。

(注4) 業種別配分のその他は、組入上位10業種以外の業種の各比率の合計を表示しています。

◎資産、負債、元本および基準価額の状況
(2017年8月23日現在)

項目	当期末
(A) 資産	299,578,418,727円
コール・ローン等	37,314,083,153
株式(評価額)	261,576,776,040
未収入金	173,355,484
未収配当金	514,204,050
(B) 負債	1,019,405,887
未払解約金	198,987,879
未払信託報酬	820,418,008
(C) 純資産総額(A-B)	298,559,012,840
元本	127,765,957,706
次期繰越損益金	170,793,055,134
(D) 受益権総口数	127,765,957,706口
1万口当たり基準価額(G/D)	23,368円

(注1) 期首元本額	137,938,865,048円
期中追加設定元本額	6,332,467,432円
期中一部解約元本額	16,505,374,774円
(注2) 1口当たり純資産額	2,3368円

◎損益の状況
(2016年8月24日～2017年8月23日)

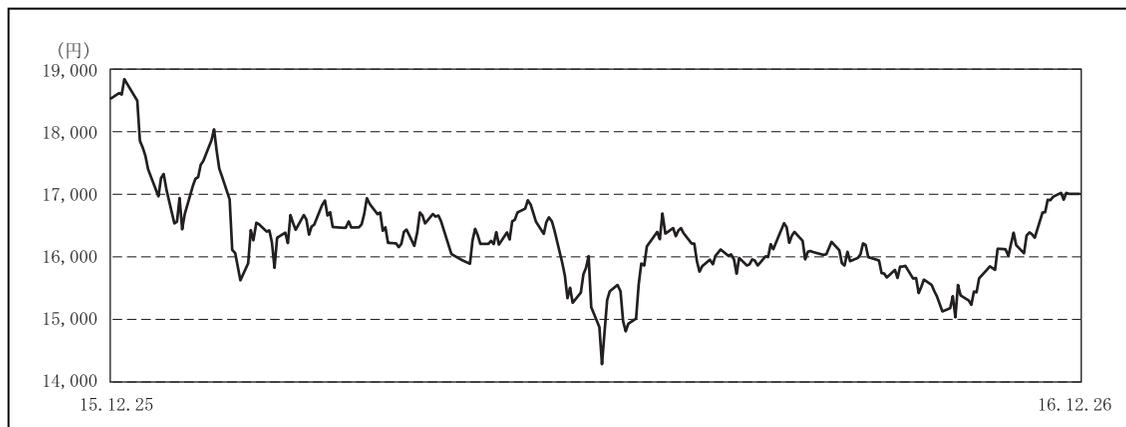
項目	当期
(A) 配当等収益	4,525,468,481円
受取配当金	4,556,259,089
受取利息	1,595,570
支払利息	△34,227,451
その他収益金	1,841,273
(B) 有価証券売買損益	53,672,051,972
売買益	59,985,765,292
売買損	△6,313,713,320
(C) 信託報酬等	△3,140,169,748
(D) 当期損益金(A+B+C)	55,057,350,705
(E) 前期繰越損益金	54,495,999,060
(F) 追加信託差損益金	61,239,705,369
(配当等相当額)	(92,336,098,274)
(売買損益相当額)	(△31,096,392,905)
(G) 合計(D+E+F)	170,793,055,134
(H) 収益分配金	—
次期繰越損益金(G+H)	170,793,055,134
追加信託差損益金	61,239,705,369
(配当等相当額)	(92,336,098,274)
(売買損益相当額)	(△31,096,392,905)
分配準備積立金	109,553,349,765
繰越損益金	0

- (注1) (B)有価証券売買損益は、期末の評価替えによるものを含みます。
- (注2) (C)信託報酬等は、信託報酬に対する消費税相当額を含めて表示しています。
- (注3) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

4 《ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンドS A（適格機関投資家限定）》

決算日：2016年12月26日 計算期間：2015年12月26日～2016年12月26日

◎基準価額の推移（2015年12月25日～2016年12月26日）



◎ 1万口当たりの費用明細 (2015年12月26日～2016年12月26日)

項目	金額 (円)	比率 (%)	項目の概要
(a) 信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	179 (108) (54) (18)	1.083 (0.650) (0.325) (0.108)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (株式会社)	17 (17)	0.105 (0.105)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税 (株式会社)	9 (9)	0.057 (0.057)	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他1) (その他2)	12 (10) (1) (1) (0)	0.071 (0.060) (0.005) (0.005) (0.001)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 外国株式に関する各種手数料等 無利息金銭信託手数料等
合計	217	1.316	
期中の平均基準価額は、16,565円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は、当組入ファンドの期末の税率を採用しています。

(注3) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当組入ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当組入ファンドに対応するものです。

(注4) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第4位四捨五入で表示しています。

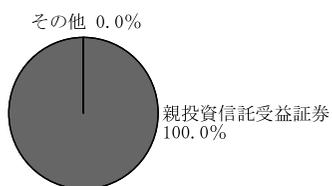
◎組入資産の明細

親投資信託残高

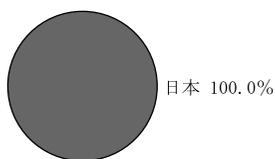
銘柄名	期首 (前期末)	当期末 (2016年12月26日現在)	
	口数(千口)	口数(千口)	評価額(千円)
ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ マザー ファンド	5,003,541	7,305,451	13,613,708

(注) 口数、評価額は、単位未満切捨てで表示しています。

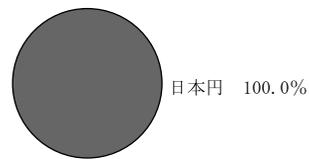
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当組入ファンドの純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

◎資産、負債、元本および基準価額の状況
(2016年12月26日現在)

項目	当期末
(A) 資産	13,679,213,629円
コール・ローン等	65,505,149
ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ マザーファンド(評価額)	13,613,708,480
(B) 負債	63,909,391
未払信託報酬	63,639,230
未払利息	161
その他未払費用	270,000
(C) 純資産総額(A-B)	13,615,304,238
元本	8,003,265,164
次期繰越損益金	5,612,039,074
(D) 受益権総口数	8,003,265,164口
1万口当たり基準価額(C/D)	17,012円

(注1) 期首元本額 5,417,760,706円
 期中追加設定元本額 2,585,504,458円
 期中一部解約元本額 0円
 (注2) 1口当たり純資産額 1.7012円

◎損益の状況
(2015年12月26日～2016年12月26日)

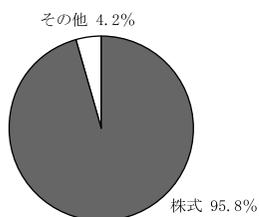
項目	当期
(A) 配当等収益	△9,649円
受取利息	115
支払利息	△9,764
(B) 有価証券売買損益	△501,168,023
売買損	△501,168,023
(C) 信託報酬等	△116,568,723
(D) 当期損益金(A+B+C)	△617,746,395
(E) 前期繰越損益金	3,098,426,201
(F) 追加信託差損益金	3,131,359,268
(配当等相当額)	(5,329,808,729)
(売買損益相当額)	(△2,198,449,461)
(G) 計(D+E+F)	5,612,039,074
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	5,612,039,074
追加信託差損益金	3,131,359,268
(配当等相当額)	(5,334,209,570)
(売買損益相当額)	(△2,202,850,302)
分配準備積立金	3,106,746,239
繰越損益金	△626,066,433

(注1) (B)有価証券売買損益は、期末の評価替えによるものを含みます。
 (注2) (C)信託報酬等は、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注3) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(8,320,038円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(5,334,209,570円)および分配準備積立金(3,098,426,201円)より分配対象収益は8,440,955,809円(10,000口当たり10,546円)ですが、当期に分配した金額はありません。

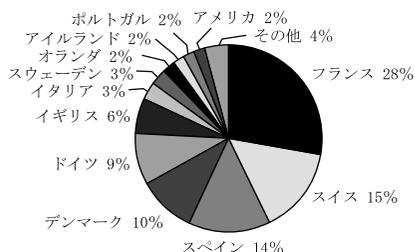
◎ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ マザーファンド 組入状況 (2016年12月26日現在)
組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	MSCI業種11分類	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	INDITEX	一般消費財・サービス	スペイン	ユーロ	7.4
2	株式	AMADEUS IT GROUP SA	情報技術	スペイン	ユーロ	6.1
3	株式	ESSILOR INTERNATIONAL	ヘルスケア	フランス	ユーロ	5.4
4	株式	DASSAULT SYSTEMES SA	情報技術	フランス	ユーロ	5.1
5	株式	COLOPLAST -B	ヘルスケア	デンマーク	デンマーククローネ	4.7
6	株式	L' OREAL	生活必需品	フランス	ユーロ	3.9
7	株式	SARTORIUS STEDIM BIOTECH	ヘルスケア	フランス	ユーロ	3.7
8	株式	WIRECARD AG	情報技術	ドイツ	ユーロ	3.6
9	株式	ROCHE HOLDING AG-GENUSSCHEIN	ヘルスケア	スイス	スイスフラン	3.6
10	株式	LINDT & SPRUENGLI AG-PC	生活必需品	スイス	スイスフラン	3.4
組入銘柄数						31銘柄

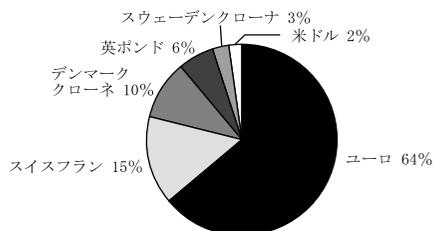
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当親投資信託の純資産総額に対する各評価額の割合です。

(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

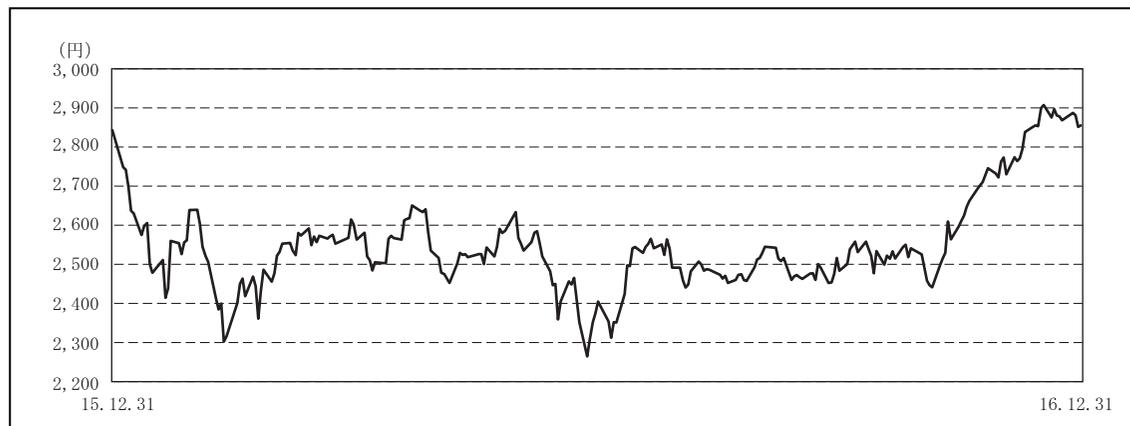
(注3) 国は、基本的にMSCI分類を使用しています。

5 《キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド（LUX）クラスZ》

決算日：2016年12月31日 計算期間：2016年1月1日～2016年12月31日

※当組入ファンドにかかる各内容（基準価額の推移を除く）は、キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド（LUX）全体のものです。

◎基準価額の推移（2015年12月31日～2016年12月31日）

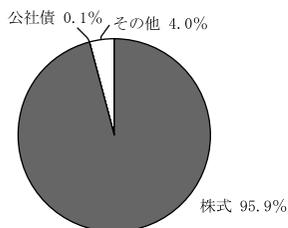


◎組入資産の明細（2016年12月31日現在）

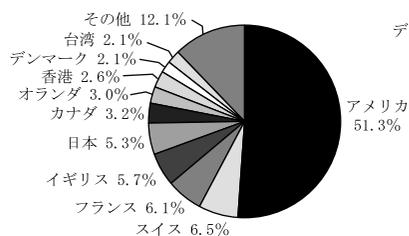
組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	業種等	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	Microsoft Corp.	情報技術	アメリカ	米ドル	2.7
2	株式	Alphabet, Inc.	情報技術	アメリカ	米ドル	2.2
3	株式	Incyte Corp.	ヘルスケア	アメリカ	米ドル	2.1
4	株式	Taiwan Semiconductor Manufacturing Co. Ltd.	情報技術	台湾	米ドル、台湾ドル	2.1
5	株式	Visa, Inc.	情報技術	アメリカ	米ドル	2.0
6	株式	ASML Holding NV	情報技術	オランダ	ユーロ、米ドル	2.0
7	株式	ATA Group Ltd.	金融	香港	香港ドル	2.0
8	株式	CME Group, Inc.	金融	アメリカ	米ドル	1.8
9	株式	Schlumberger Ltd.	エネルギー	アメリカ	米ドル	1.8
10	株式	LafargeHolcim Ltd.	素材	スイス	スイスフラン	1.6
組入銘柄数						164銘柄

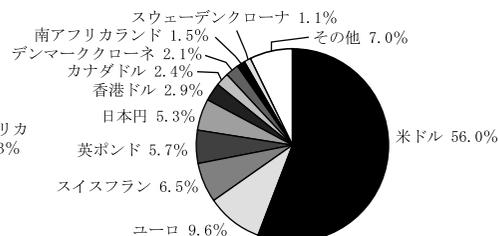
【資産別配分】



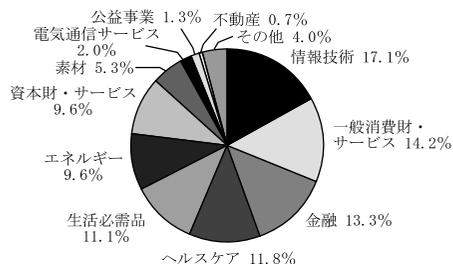
【国別配分】



【通貨別配分】



【業種別配分】



(注1) 比率は、純資産総額に対する各評価額の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

(注2) 同一会社の株式は、それぞれまとめて1銘柄として組入比率および組入銘柄数を表示しています。

(注3) 現金、その他の資産等は、その他に含めて表示しています。

◎資産、負債および純資産の状況 (2016年12月31日現在)

(ユーロ)

Assets	
Investments at market value	539,073,852
Cash at bank	21,784,686
Receivable for fund shares subscribed	3,547
Dividend and interest receivable (net of withholding taxes)	858,544
Prepaid expenses and other receivables	379,255
Receivable for investments sold	26,732
Total assets	562,126,616
Liabilities	
Accrued expenses and other payables	349,098
Management fee payable	132,232
Payable for fund shares redeemed	59,938
Total liabilities	541,268
Total net assets	561,585,348
Investment securities at cost	425,983,055

◎損益の状況 (2016年1月1日～2016年12月31日)

(ユーロ)

Income	
Dividend income (net of withholding taxes)	10,419,484
Interest on bonds and convertible bonds (net of withholding taxes)	4,288
Other income	191,242
Interest on bank accounts	36
	10,615,050
Expenses	
Management fee	1,596,680
Administrative Manager services	427,658
Professional services	358,411
Taxe d'abonnement	108,395
Depository and custody	88,488
Printing and publishing	70,264
Other	46,901
	2,696,797
Reimbursement of expenses	249,131
Net investment income/(loss) for the year (a)	8,167,384
Net realised gain/(loss) on:	
Sale of investments	29,029,592
Foreign currency transactions	434,866
Net realised profit/(loss) for the year (b)	29,464,458
Net change in unrealised appreciation/(depreciation) on:	
Investments	2,367,330
Foreign currency transactions	130,680
Net change in unrealised appreciation/(depreciation) for the year (c)	2,498,010
Result of operations for the year (a+b+c)	40,129,852
Dividend distribution	(111,175)
Net subscriptions/(redemptions) of shares for the year	(108,010,415)
Total net assets at the beginning of the year	629,577,086
Total net assets at the end of the year	561,585,348

■直接販売の状況

当期末（2017年10月2日）の全口座数は、3,090件（前期末比+164名、+5.6%）になりました。

また、「定期定額購入サービス」をご利用のお客様数は、全体の76.4%にあたる2,360件（前期末比+129件、+5.8%）になりました。

全口座のうち、残高のある口座の比率も、87.0%と引き続き高い水準を保っています。

このように定期定額購入サービスの利用率が極めて高いことが、弊社の特徴であり、強みでもあります。定期定額による購入額も順調に伸びてきており、当期は、ボーナス時期でもある2017年7月に7,100万円を超え、期中の月平均でも5,700万円に迫ってきました。このファンド仲間の皆様からのぶあつい定期定額マネーは、ユニオンファンドの運用に安定感をもたらしてくれます。

資金流入入につきましては、8億4,346万円の資金流入（買付）に対して、3億5,314万円の資金流出（解約）で、4億9,031万円の純流入となりました。株式市場が世界的に堅調に推移したこともあり、2017年9月に基準価額は25,000円を超え過去最高を更新しました。

これらの数字が示しているとおおり、基準価額の上昇と安定した資金流入に支えられ、当期末のユニオンファンドの純資産総額は57億5,120万円（前期末比+15億9,936万円、+38.5%）となりました。

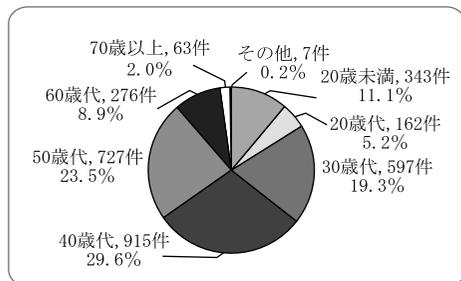
弊社は、働く仲間とその家族の方々の財産づくりのお手伝いをさせていただくべく設立された資産運用会社です。ファンド仲間の皆様一人一人が、自分らしい人生を過ごすための一助を担うことができるのであれば、これほど幸せなことはありません。

主にセミナーや個別相談等のFace to Faceの活動を中心に「生涯投資」・「グローバル投資」・「つみたて投資」の有効性や魅力、そして、これからの明るい未来のために、自らの意志で自らのお金を世の中に活かすことの大切さをご説明しており、弊社の経営理念や運用哲学にご賛同いただいたお客様がゆっくりではありますが、着実に増え続けています。

これからも、ユニオンファンドは、ファンド仲間の皆様の“生涯投資の道”の頼もしいパートナーであるべく、丁寧に丁寧に運用して参る所存です。

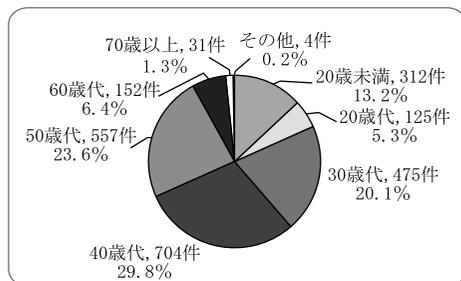
（注）各金額は単位未満切捨てで、比率は小数第2位四捨五入で表示しています。

年代別口座数（2017年10月2日現在）



（注）比率は、全口座数に対する各年代の口座数の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

年代別定期定額購入利用者数（2017年10月2日現在）



（注）比率は、全利用者数に対する各年代の利用者数の割合で、小数第2位四捨五入で表示しています。

年代別定期定額購入1回当たりの平均引落額（2017年10月2日現在）

年代別引落額平均（月次）（単位：円）			
20歳未満	10,437	50歳代	32,724
20歳代	20,015	60歳代	37,897
30歳代	24,445	70歳以上	41,182
40歳代	27,593		

（注）1回当たりの平均引落額は、次の式で算出し、円未満切捨てで表示しています。

（当該年代の毎月の契約金額の合計×12÷当該年代の増額月の契約金額の合計）÷12÷当該年代の利用者数